

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月18日
札幌市立石山緑小学校

- 1 学校教育目標 『未来を見つめ たくましく 人間性豊かに学び続ける子どもの育成』
- 2 本年度の重点目標 『なりたい自分に向かって みんな前進!』
- 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学力育成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学習者の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・「課題探究的な学習」の充実 ・生きて働く「学び」の実感=本物の経験 ・家庭学習の定着と充実 ○情報リテラシー（情報収集力、分析力、活用力）の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの効果的な活用・適切な自己管理 ○基礎基本の知識・技能の確実な習得 ○どの子も「分かる」「できる」「楽しい」授業 <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを意識した授業展開、環境整備 ○「なりたい自分」の実現に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート 	B	<p>先生方同士で子どもの様子や授業づくりのことを交流する機会を増やす。日常的に職員室の会話の話題になることが理想的。今後も研修を設定し交流のきっかけの一助にしていきたい。学年やブロックで子どもを育てるという視点をもって交流していく。</p> <p>学校 HP や学級通信などを活用して保護者や地域への情報発信を工夫していく。</p> <p>家庭学習カードの活用に関しては、必要な学年や子どもが使えるようにしていく。</p> <p>お互いに授業を見合う研究推進を継続していく。しっかり見合えるように日程の重複を避け、より早期に日時を決定したり、授業実践期間を長くしたりして対応していく。</p>	A	A
豊かな心育成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ○自治的な活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・PLUSのまほう ○相互承認の感度の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・石山緑のあいいうえお ・「あこがれ」「さすが」いっぱい ○主体的な学び手となる読書指導 <ul style="list-style-type: none"> ・読書の楽しさを実感する機会の充実 ・各教科学習とのリンク ○道徳教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめは絶対に許されないという意識の醸成 	B	<p>挨拶級表の内容を「返す」「目を見て」「立ち止まって」などに絞り込み、達成度合いを振り返ることで、全体的な底上げを目指す。</p> <p>挨拶委員会を立ち上げるなど設置する委員会の検討を行う。放送委員会では事前に教員が原稿の確認を行い、練習の機会もつくる。体育委員会にすこたいプロのメンバーを1名入れる。</p> <p>挨拶のみならず言葉遣いや礼儀についても日常の授業の中から育てていく。</p> <p>全校で同じ目標にする月を設け、全校的な意識の向上を目指す。</p> <p>儀式に対する意識の向上を目指すため、1年間の儀式を通じて、1～6年が1回ずつ最初に退場する機会をつくる。</p>	A	A
健やかな体育育成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ○挑戦したくなる三間（仲間・時間・空間）の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・運動機会の充実 ・環境整備 ○ウェルビーイングにつなげて <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・食育指導 ○安全教育と事故指導能力の向上 	B	<p>廊下歩行・休み時間の過ごし方・日課時間で動く意識等は、全教職員が共通理念を統一し、子どもたちに指導していく。</p> <p>跳び箱運動は2週間、マット週間は3週間の設定とし、体育館半面に設置する。半面は鬼遊びができるように場の設定を考える。</p> <p>食や保健指導については、次年度も継続していく。養護教諭や栄養教諭のみならず、担任の先生も意識的に指導を進めていけるような手立てを考えていきたい。また、「性に関する指導」について各学年（年間）2コマとし、ジェンダーについての指導を含めたものに刷新していく。</p>	A	A

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
特別委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども支援委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・学びの支援 ・いじめ防止 ○みどりんカリキュラム <ul style="list-style-type: none"> ・評価、教材採択 ・みどりんタイム(総合的な学習の時間)、教科部会 ○学校保健安全委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全 ・アレルギー対応 ○CS準備・幼保小中の連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫した教育 ・地学協 ○予算委員会 	B	<p>子ども支援に関わり、個別の支援の必要な子に校内教育支援センターの役割として「会議室の活用」を図った。利用状況をシートで共有し、今後も効果的に進めていきたい。また、いじめ防止も含め、集会で共有する場を設けて、早期・即時的に情報共有できるようにする。</p> <p>カリキュラムの見直しを行い、近隣校の情報も踏まえつつ、下校時刻や休み時間の設定を見直す。</p> <p>R8～石山中学校区のコミュニティスクールが導入される。これまで同様、小中の連携・地域との連携を推し進めていきたい。</p> <p>PTA 委員選出に関して、新年度担任の負担とならないように、前年度のうちに候補者の絞り込みを行う。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>○改善の方策にある通り、今後も継続した各業務(事業)を確実に推進していただければと思います。</p> <p>○地域との取組も、引き続きよろしく申し上げます。</p> <p>○児童アンケートから全体的に自己肯定感が高いと感じられました。体育館が入りやすいところに位置していること、玄関ホールが運動してもよいスペースになっていることなどから、運動することが身近になっていることがよいと思います。</p> <p>○疲れている心をもっている児童に訪れやすい部屋を整えるなど様々な工夫も感心いたしました。</p> <p>○地域との関わりの中で、安心して暮らしていることを少しでも感じていると思います。</p> <p>○小中一貫の考え方で関わりをもち触れ合うことも「中学生の壁」と言われる不登校などの問題もクリアできるのではないかと、とても期待がもてます。</p> <p>○「すぐーる」を活用した情報発信も大いに期待しています。PTAからの発案も学校と保護者の関係に役立つことも多く、よりよい学校生活を送れると思います。</p> <p>○日常的に校長先生と児童が関わる空気感づくりもお人柄によるものだと思っています。全体的に明るい雰囲気を感じるのには教職員の皆さんと児童がよい関係を築いていることがよく分かります。</p> <p>○石山中学校との交流が増えて、保護者から好評の声が聞こえています。中学進学時の不安を少しでも軽減できる方策はとても良いと思います。</p> <p>○冬季の運動は大変かと思いますが、体育館内以外でも冬季オリンピック種目のようなスポーツを体験する機会があったらいいなと思います。</p> <p>○思いを伝えたり、意見を発言したりするのが課題なのかと思いました。</p> <p>○豊かな心の部分は肯定的なアンケート結果であり、達成状況は「A」でもよいのではと思います。また、以前お伺いした個に応じた対応の工夫から特別委員会の達成状況も「A」でよいと思います。</p> <p>○跳び箱・マット週間を設定することは、担任が児童に器具用具の準備をさせるのに要する時間の短縮となるから、常時あることで時間も親しむ機会も増えるとてもよい取組だと思っています。</p>				